

キクに対するかん水装置の種類とかん水法

安部秀雄・木村喜久夫・佐藤義機.

この実験はキク栽培におけるかん水労力を軽減するため、かん水方法とかん水量について検討した。

1. 点滴方式、散水方式と噴水方式の 3 方式(7 機種)を用いて比較した結果、耐用年数、配管経費、目詰まり、およびかん水の均一性などから、散水方式が良好と思われる。

2. キク栽培に適するかん水量は夏ギクの促成栽培でビーノズルを用いて自動かん水する場合、PF1.5(前期)、2.2(中期)、1.8(後期)に設定した区がよく、電照ギクでは PF2.0 の設定が良質の切花が得られた。